

ライオン 日本ケロッグ

朝の生活習慣から子どもの自己肯定感向上へ
咀嚼・歯磨きを二体で啓発、
異業種連携で「小さな成功体験」を創出

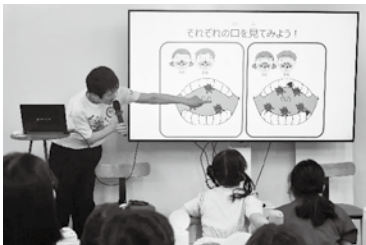
ライオンと日本ケロッグは7月23日、全国子ども食堂支援センター「むすびえ」の協力のもと、東京都渋谷区で「朝のカミ・ピカピカ習慣 体験イベント」を開催した。朝食での咀嚼と食後の歯磨きを一連の生活習慣として体験するプログラムを通じ、子どもの自己肯定感の向上を目指した。

両社はそれぞれ「むすびえ」と答えた子どもの割合は「自分でできた」という成功体験が不足している。と連携して子どもとスウェーデン、ドイツの朝食や歯磨きは子ども自身が主体的に取り組みやすく、その積み重ねが自信につながる」と話す。

山口マネージャーは、信に「つながる」と話す。山口マネージャーは、信に「つながる」と話す。

朝食と歯磨きを二体で
体験、習慣化を後押し

イベントには23人が参加する「噛もつとーガム」の加し、衛生講座、咀嚼体験や歯みがき指導を、加し、シリアル作り、歯みがき講座、デコ歯ブラシ作りなどを実施した。ライオンは咀嚼力を確認する「噛もつとーガム」の加し、衛生講座、咀嚼体験や歯みがき指導を、加し、シリアル作り、歯みがき講座、デコ歯ブラシ作りなどを実施した。ライオンは咀嚼力を確認する「噛もつとーガム」の加し、衛生講座、咀嚼体験や歯みがき指導を、加し、シリアル作り、歯みがき講座、デコ歯ブラシ作りなどを実施した。



テナビリティ施策チームの高橋典子氏は、「歯磨きができたことを大人が認め、褒めることが子どもの自信や自己肯定感につながる」と話した。

一方、日本ケロッグは2022年から「ケロッグ毎日朝ごはんプロジェクト」を展開し、子ども食堂へシリアルディスペンサーを提供して朝食習慣の定着や栄養バランスの向上、咀嚼機会の創出

ライオンは7月31日、オーストラリア発のナチュラルビューティケアブランド「Sukin」(スーキン)の輸入・販売を担う100%子会社「Sukin Japan」を設立したと発表した。2026年11月から日本国内でスキンケア製品の販売を開始する。

ライオン「Sukin」国内販売会社を設立
11月から日本国内で展開

ライオンは7月31日、オーストラリア発のナチュラルビューティケアブランド「Sukin」(スーキン)の輸入・販売を担う100%子会社「Sukin Japan」を設立したと発表した。2026年11月から日本国内でスキンケア製品の販売を開始する。

同社は2026年1月、オーストラリアでナチュラルビューティケアや肌ストレスへの関心を売上高No.1のブランド「Sukin」を展開するPNB Consolimited Pty Ltdの全株を取得。今回の子会社設立は、同ブランドのアジア展開に向けた取り組みの一環となる。

Sukinは「地球に負担をかけないスキンケア」を掲げ、肌や環境に配慮したクリーンナチュ

ヒット商品

母子手帳



第497回

「ボタニカルハンドメイド洗顔石鹸」
Sui Savon—首里石鹸—

選ぶギフト体験としても大きな反響を呼び、ブランドの認知度を一気に引き上げた。

ブランドの成長を支えているのは、製品開発から店舗運営まで「対話」を軸にした独自の事業モデルだ。今秋には、長年の愛用者からリクエストが増え

沖縄発スキンケアブランド「Sui Savon」首里石鹸が、沖縄素材の魅力を引き出す独自の製品開発と店舗を軸にした接客販売で、「エッセンスハンドクリーム」や「琉球のホワイトマリンクレイ洗顔石鹸」などのヒット商品を創出し、ファン層を全国に広げている。

観光客の多い沖縄県内の店舗ではお土産需要も高く、外国人にも人気で、今年5月には初の海外店舗を台湾に出店した。現在、国内外35店舗(26年5月現在)を展開している。

ブランドは、2016年に手作り石鹸からスタートした。その基幹商品「ボタニカルハンドメイド洗顔石鹸」(130g)は、月桃やシークワーサーなど沖縄産の植物や果物をベースに、香りや色、配合原料で沖縄らしさを追求している。1つひとつデザインが異なる



「体験」軸で全国区に、ブランド進化

私のH & B日記

は、中学の修学旅行、友人と巡った大学時代、そして「平城遷都1300年祭」(2010年)のわずか3回。そのうち前者2つの観光は奈良市内で完結し、遷都1300年

飛鳥のイメージ

は、中学の修学旅行、友人と巡った大学時代、そして「平城遷都1300年祭」(2010年)のわずか3回。そのうち前者2つの観光は奈良市内で完結し、遷都1300年

ただ、子どもの頃に抱いた聖徳太子のイメージは消えずに残っている。複数の声を同時に聞き分けられることもA Iならば可能な時代を迎え、憧れの存在に近づけることができる。(菅

(禁無断転載) ©R
本紙の全部または一部を無断で複製複製(コピー)することは、堅く禁じられております。
本紙からの複製を希望される場合は、出版者著作権管理機構(JCOPY) (03-3513-6969)まで必ずご連絡下さい。